

天皇誕生日祝賀レセプション（2014年12月3日）における東博史大使の挨拶
（仮訳）

ご列席の皆様、本日はお集まり頂き誠にありがとうございます。天皇陛下の81回目の誕生日をお祝いする本日のレセプションに皆様をお迎え出来ることは、私にとって大いなる名誉であり、喜びでもあります。

12月23日に81歳の誕生日を迎えられる天皇陛下は、10月に80歳を迎えられた皇后陛下と共に、ご高齢にも関わらず積極的にご公務をこなされておられます。

さて、2014年はポルトガルにとって、2011年から始まったトロイカ支援が終了し市場復帰を果たした年でもあり、新たなスタートの年になったのではないかと思います。トロイカ支援の終了、市場復帰に対し改めて祝意を表します。

日本とポルトガルの二国間関係においても、本年は重要な節目の年となりました。本年5月、安倍総理は現職の総理大臣として初めてポルトガルを訪問し、歴史的で画期的なこの訪問によって、470年続く日本とポルトガルの二国間関係は新たな段階に入りました。

安倍総理の訪問後、両国間では、6月のクリスタス農業・海洋大臣の訪日、7月の稲田内閣特命担当大臣、衆議院憲法審査会一行、8月の衆議院赤松副議長一行のポルトガル訪問、9月のベレーザ・シャンパリモー財団理事長の訪日、11月のフラスキーリオAICEP長官の訪日等のハイレベルの人的往来が続き、日本とポルトガルの交流はより活発になってきています。

また政府・議会関係のみでなく、ビジネスの分野においても交流進展が見られました。日本企業による新規投資や、10月のジェトロミッションのポルトガル訪問は、今後の日本とポルトガルの経済関係の更なる発展を期待させます。

文化・学術交流では、当館事業として10月に外務省と共催で「コロキウム：日本・ポルトガル・EU協力」を実施し、日本、ポルトガル、欧州の政治、経済、文化面での協力を焦点を当てた講演が行われました。また毎年恒例となった6月の「日本祭り」開催や現在グルベンキアン財団で開催中の書道展など幅広い交流事業が行われました。

更に、本年は日本とCPLP（ポルトガル語圏諸国共同体）との関係にとっても新たな局面が開かれました。7月に東ティモールで開催されたCPLP首脳会合にて日本のCPLPへのオブザーバー参加が承認されたことを初め、日本は10月に実施されたサントメ・プリンシペ議会選挙への選挙監視員派遣を行ったほか、ジェトロミッションでポルトガルを訪問した企業がCPLPビジネス連盟と直接コンタクトするなど、日本とCPLPとの交流が進み

始めたことは大変喜ばしいことです。

2015年も引き続き、政治、経済、文化など様々な分野において良好な二国間関係を更に深化させるよう尽力していく所存です。ご出席された皆様のお力をお借りできれば幸いです。

本日はUNESCOの無形文化財指定を得た我々が誇るべき日本文化である和食、そして日本酒を皆様に十分に堪能して頂きたく存じます。

皆様、今一度、本日はお集まり頂きありがとうございました。天皇陛下の81回目の誕生日と今後の二国間関係の更なる発展を祈念しまして、乾杯をしたいと思います。どうぞグラスをお取り下さい。

乾杯。